

長崎県警察60年のあゆみ

平成26年7月



～大村警察署編①～

大村警察署の歴史①明治



大村警察署だより外号
大村警察署警務課

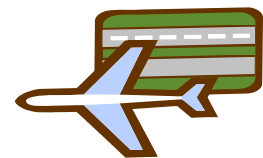
現行警察60周年に伴い大村警察署の歴史を知り、警察の原点について考えます。

昭和29年法律第162号として現行警察法が公布され、同年7月1日施行になり、ここに都道府県単位の警察が誕生、長崎県警察も同時に発足しました。

現行警察制度発足60周年に伴い、各都道府県警において様々な取り組みがありますが、ここでは大村警察署の歴史について調べました。

大村警察署の歴史

大村市は、東に雄大な多良岳県立公園を擁し、西に風光明媚な大村湾県立公園をのぞむ自然の景勝地です。ここに、明治9年警察署創設以来約140年の歴史と伝統を誇る大村警察署があります。



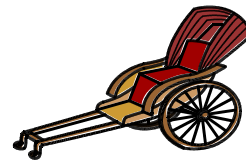
大村警察署のあゆみ

大村署の前身

廃藩置県後、長崎県は、明治5年2月長崎の県庁の聴訟課に付属し、長崎市及び外国人居留地の警備に従事しました。明治9年「府県職制」に基づき、警保局を「第4課」に改称し、長崎市外浦町に設置。本県では、警察区制を設け、県内を7区に分け、各区に警察出張所並びに屯所を置きました。

大村署の前身である長崎県警察第4区は、明治9年3月、東彼杵の大村、三浦、鈴田、竹松、福重、萱瀬、松原、千綿、彼杵、川棚、上波佐見、下波佐見の12ヶ村を管轄区として警部1名、巡查5名を配置して開設され、同年5月彼杵に第1屯所を置き、巡查4名を配置したのが始まりです。

明治時代の変遷



明治9年9月：諫早が第4区（大村）の配置へ・・・諫早、北高全域を編入

明治10年1月：出張所、屯所の名称廃止され、大村警察署、同諫早分署、同彼杵分署と呼称されるようになった。

明治12年12月：平戸警察署早岐分署が大村署に移管

明治19年9月：諫早分署が昇格して諫早警察署を創設、諫早、北高を分離

明治20年4月：早岐分署所轄の佐世保村に佐世保分署を開設

→ 明治29年4月佐世保警察署となり、早岐分署も移管

※ これにより、管轄区も縮小され、東彼杵郡のうち当時の大村、西大村、三浦、鈴田、竹松、萱瀬、福重、松原の8か村と千綿、彼杵を管轄することとなった。

～幕末から、明治、そして大正、昭和へ～